

## 富良野演劇工場運営委員会（平成 29 年度第 1 回）顛末

日 時 平成 29 年 6 月 30 日（金） 午前 9 時～10 時

場 所 文化会館 第 2 会議室

出席者 委員：5 名、演劇工房：2 名、事務局：4 名

### ■ 報告事項 ～進行は天日委員長

#### （1）平成 28 年度富良野演劇工場指定管理について

舞台照明設備改修工事を実施、吊物装置についても耐用年数を経過しているので、更新計画を考えていきたい。

#### （2）～（5）平成 27 年度収支決算～団体利用日数について

太田事務局長：法人として赤字になっている。要因として補助金を取りづらく又減額となっており、これまでの貯金を取り崩し良い作品をしてきた。今後は補助金に頼らない運営をしていきたい。

原田委員：人件費のうち退職金共済はどのようにしているのか。雇用条件を良くし、雇用主の責務を果たしてければ、良い人材を確保できない。

太田事務局長：中退共に加入し、会社で負担している。

瀬川理事長：社会労務士が理事に入り、雇用環境改善を図っている。

### ■ 協議事項 富良野演劇工場の運営に係る意見交換

高野委員：演劇祭は教員とは違う感覚で接していただいております、先生方も勉強になる。子供たちの成長する姿を一般の人にも見てもらいたい。

有名な作品や、演劇祭では駐車場や席が少ないのがなやみ。

太田事務局長：演劇祭の当初、観客席はがらがら、今はうれしい悲鳴。

山口委員：工場の目的は、動員数は？東京から作品を呼ぶと高い、安くても良いものができれば。工場で発表できるといった、工場に対するファンづくり、当日の売り上げだけでやってもらえる、つながりで呼んではどうか。

瀬川理事長：色々な人とつながることで、意識してやっていきたい。理事者の若返りを図り、工房を支える人を育てたい。札幌では演劇祭は 3 年に 1 回しか開催していないが、市民劇は年 2 回満席になり感謝している。

坂本委員：よく顔を出すとよく見える。演劇祭は最初、人がいなかったのが今は盛況で良さもわかってくる。「やすらぎの郷」で知名度が上がっている、宣伝しながらがんばって、ワークショップで興味を持たす。

天日委員：社会教育の全国大会で、工場を見て感動された、恵まれた環境である。